

本製品には左右勝手があります。

説明書は、右開き勝手扉について図示してありますので、左開き勝手扉の場合は、本図と左右対称の位置となるように取付けて下さい。

1 扉の開き勝手

必ず吊元（丁番軸）の見える側又は、扉を引いて開ける側に立った時に吊元が

左に見えるものを 左開き勝手扉
右に見えるものを 右開き勝手扉

扉のどちら側に取付けるか

a) クローザ本体は、左図の如く丁番の反対側に取付けて下さい。

2 メインアームの取付

a) 本体の向きは速度調整弁を吊元側に向けて下さい。
b) メインアームは必ず吊元の反対側に伸びる様に取付けて下さい。
c) メインアームをピニオン軸にワッシャー及びメインアーム連結ボルトにてしっかり締付けて下さい。

注 メインアームがピニオン軸に入りにくいときは、ピニオン軸にメインアームの角穴をあてがい、連結ボルトにてねじ込んで下さい。ハンマー等でメインアームをたたいて入れるとピニオン軸受部を破損し、油もれを起こし正常に機能しなくなります。

3 クローザ本体の取付

**KM314PDA-HS1型
KM314PDA-HS3(A)型** ◆ KM314PDA-HS1・KM314PDA-HS3(A)

a) 本体の速度調整弁を吊元側に向けて、扉面の既存のネジ穴に本体プレートを取付ネジ（4本）にて取付けて下さい。

注 取付ネジは、ISOネジとJISネジが両方入っていますので、すでに加工されているネジ穴に合った物を使用して下さい。

**KM314PDA-HS2型
KM314PDA-HS3B型** ◆ KM314PDA-HS2・KM314PDA-HS3B

a) 本体の速度調整弁を吊元側に向けて、扉面の既存の穴に本体プレートとハサミ板により扉をはさみ込むようにして取付ネジ（4本）にて取付けて下さい。

注 取付ネジは、強く締付けて下さい。緩いと本体がぐらつき正常な機能を果たさなくなります。

4 アームブラケットの取付

**KM314PDA-HS1型
KM314PDA-HS3(B)型** ◆ KM314PDA-HS1・KM314PDA-HS3(A/B)

a) アームブラケットを、上枠の既存のネジ穴に取付ネジ（2本）にて取付けて下さい。

注 取付ネジは、ISOネジとJISネジが両方入っていますので、すでに加工されているネジ穴に合った物を使用して下さい。

お願い
既存のネジ穴以外にネジ穴を2個追加し、取付ネジ4本にてしっかり取付けて下さい。

KM314PDA-HS2型 ◆ KM314PDA-HS2

a) アームブラケットを、上枠に取付けられているライナーの既存のネジ穴に取付ネジ（2本）にて取付けて下さい。

お願い
既存のネジ穴以外にネジ穴を1個追加し、取付ネジ3本にてしっかり取付けて下さい。

5 アームの連結

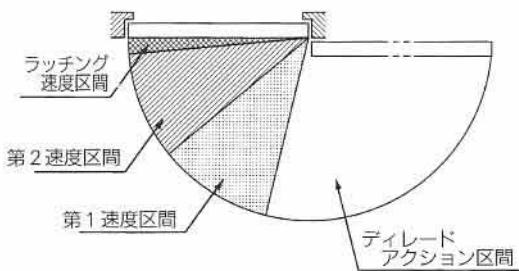
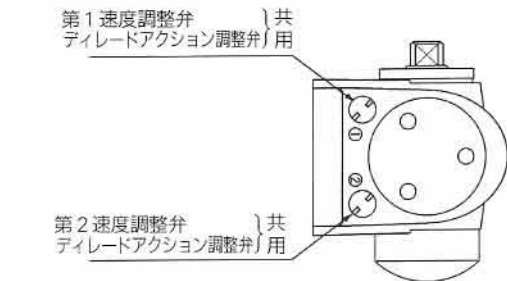
a) アジャストアームの先端の穴にメインアーム先端のピンをはめ合わせ連結して下さい。
その時、フォークアームは扉面又は上枠と平行になるようにロックナットを緩めアジャストアームをねじり長さを調節して下さい。
b) 長さを調節後ロックナットを充分締付けて下さい。
c) アーム連結ボルトをしっかり締付けて下さい。
d) キャップは下からパチッとあはめて下さい。

速度調整の方法、ディレードアクション・第2速度の調整、バックチェック機能、ディレードアクション機能は裏面をご覧ください。

速度調整の方法

- 2つの速度調整弁により、1速・2速ラッチング速度及びディレードアクションの調整ができます。
- 1速・2速の速度調整弁で、トータルスピードを調整して下さい。
- ディレードアクション区間をゆっくりと閉扉させたい時には、ディレードアクション調整弁で速度を調節できます。
- エア・タイトドア等で、1速・2速の調整では、ラッチングしない時に、ラッチング速度調整弁を調整し、扉のラッチング状態を調整できます。

- ※ 第1速度調整弁とディレードアクション調整弁は、共用となっています。
 - ※ 第2速度調整弁とラッチング速度調整弁は、共用となっています。
 - ※ 調整弁は、必要以上に回さないで下さい。戻しすぎると調整弁がはずれることがあります。
- 電動ドライバーは、故障の原因となるため、使用しないで下さい。



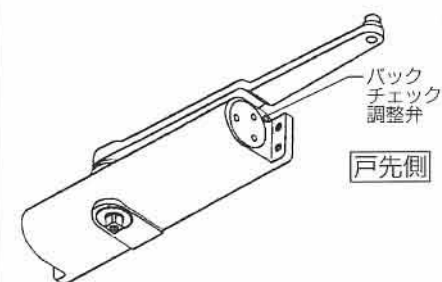
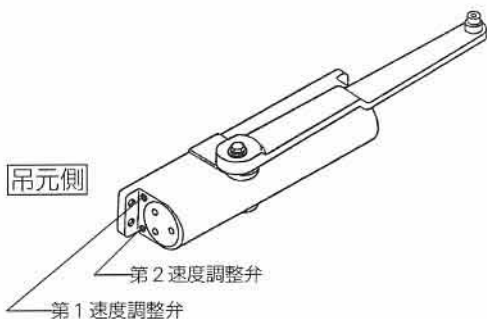
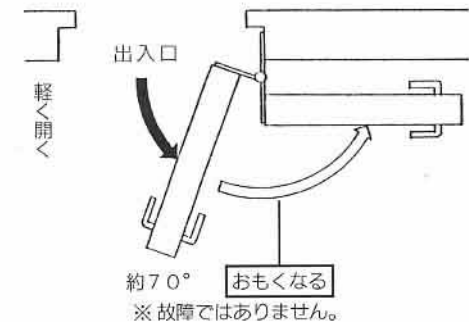
バックチェック機能について

- このドアクローザは、風による急激な開扉にブレーキをかけ、やわらげる装置（バックチェック機能）が付いています。
- 普段、70度以上開く時は、このバックチェック機能がはたらき、開き力が少し重くなりますが、ゆっくり開けて下さい。

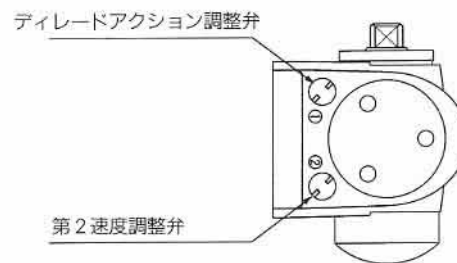
- 注1) 速度調整弁（吊元側）の反対側に、バックチェック調整弁（戸先側）があります。
- 注2) バックチェックの調整は、適正な重さに調整済ですので、低温時、極端に重い場合などの不具合が生じない限りは、むやみにいじらなで下さい。もしも万一、バックチェックの強弱調整が必要な時は、次の要領で調整して下さい。

弱く  強く


- 注3) 速度調整弁は、弁が2つです。バックチェック調整弁は、弁が1つです。間違わないようご注意ください。
- 注4) 調整弁は必要以上に回したりしないで下さい。緩めすぎると調整弁がはずれ油もれを起こし正常に機能しなくなります。
- 注5) 電動ドライバーは、故障の原因となるため、使用しないで下さい。

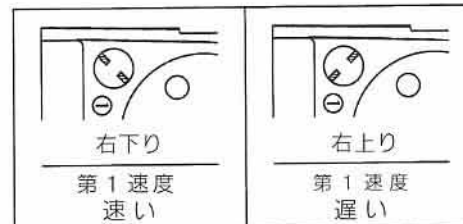


ディレードアクション・第2速度の調整



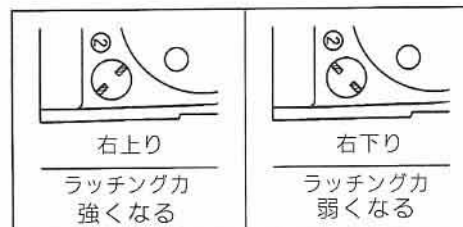
ディレードアクション・第2速度の調整は、各々の調整弁を右へねじ込んでいけば遅くなり、左へ回せば速くなります。

速くなる  遅くなる



第1速度の調整

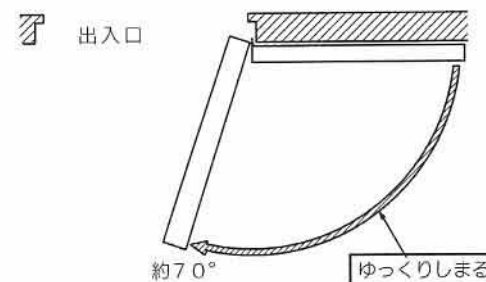
ディレードアクションと第1速度の調整弁は共用ですので、ディレードアクションを適当な速度に調整した後で、1速の調整を行なって下さい。（上記の調整弁の角度によって決まります。）



ラッチング速度の調整

ラッチング速度と2速の調整弁は、共用ですので、2速を適当な速度に調整した後で、ラッチング速度の調整を行なって下さい。（上記の調整弁の角度によって決まります。）

ディレードアクション機能について



- このドア・クローザは、出入口から物を出し入れするなどの際に一度扉を開けると一定時間閉まらない（ゆっくり閉まる）装置（ディレードアクション機能）が付いています。
- 普段、扉が閉まる際は、ディレードアクション機能がはたらきゆっくりと閉まります。約70°位で通常の色度に戻ります。

- 注1) ディレードアクション調整弁は、第1速度調整弁と共用です。
- 注2) ディレードアクションの調整は、BL規格どおりに調整済ですが調整が必要な時は、うら面の速度調整の方法をご覧ください。

